

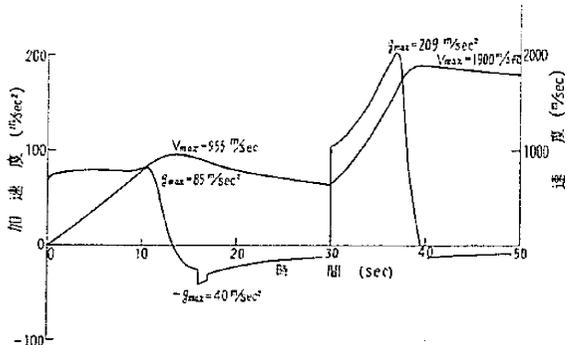
K-9M-1 はブースタ切斷後メインは点火せず、メインはそのまま上昇した。この場合の飛しょう経路のレーダによる実測値と計算による結果を第4図(b)に示す。

(4) K-8-11 号機

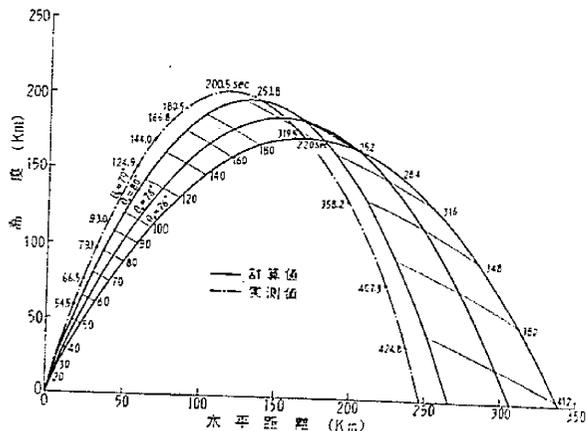
第4表に諸元を第5図(a), (b)に計算結果を示す。

第4表 K-8-11 号機諸元

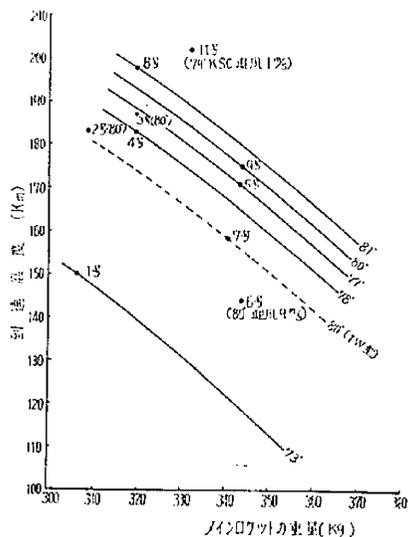
	booster stage	main rocket
全長(mm)	10930	5290
外径(mm)	420	248
全重量(kg)	1529.9	331.9
燃焼秒時(sec)	16.0	9.715
搭載重量(kg)		29.2



(a) K-8-11 号機加速度速度曲線(発射角度 78°)



(b) K-8-11 号機飛しょう経路
 ブースタ燃焼終了; 16 sec
 " 切斷; 17 sec
 メイン点火; 30 sec
 " 燃焼終了; 39.5 sec
 第5図



第6図 K-8 型のメインロケット重量に対する到達高度(レーダ観測による実測値)

発射時重心まわりの運動を考慮すればこの計算結果より約 1.5° だけ発射角を増した飛しょう経路になる。また地上 1Km まで一様な横風として風速 1m 当たり 0.6° だけ風の方に傾く。

最後に現在までに飛しょうした 8 型の到達高度を整理したものを第6図に示しておく。性能計算に当たっては本所渡辺・野村教授およびに研究室の方々には一方ならぬお世話になった。ここに感謝する次第である。

(1963 年 4 月 22 日受理)

文献

- (1) 渡辺 勝 生産研究観測ロケット特集号 13, 10
- (2) Rosser, J. B. et al. "Mathematical Theory of Rocket Flight" McGraw-Hill, 1947

正誤表(6月号)

ページ	段	行	種別	正	誤
9	左	17	本文	r 反応)	反応)
"	"	18	"	を除して	r) を除いて
24	右		第2図	粘性係数	粘性係数作動